



平成29年度 北広島市学校教育の推進方針



北広島市教育委員会

目次

| | | |
|--|-----|----|
| はじめに | ・・・ | 1 |
| 第1章 北広島市教育基本計画 | ・・・ | 2 |
| (図表) 人と文化を育む8つの政策と24の施策 | ・・・ | 3 |
| 第2章 学校教育の推進方針 | ・・・ | 4 |
| (図表) 平成29年度 北広島市学校教育の推進方針 | ・・・ | 4 |
| 1 教育の基本理念 | ・・・ | 5 |
| 2 北広島市の教育目標 | ・・・ | 5 |
| 3 北広島市の学校教育目標 | ・・・ | 5 |
| 4 北広島市にゆかりのある3人の先人の精神を礎として ～懐く・励む・挑む～ | ・・・ | 6 |
| 5 めざす子ども像 | ・・・ | 7 |
| 6 学校教育推進施策 | ・・・ | 7 |
| 7 学校教育の重点 | ・・・ | 8 |
| 8 本年度の実践目標 | ・・・ | 9 |
| 9 実践への具体的手立て | ・・・ | 9 |
| 10 実践への具体的手立てと達成目標 | ・・・ | 13 |

はじめに

北広島市は、昭和45年（1970年）に最初の総合計画を策定して以来、広島町新長期総合計画をはじめとする4次にわたる計画を策定し、総合的、計画的なまちづくりを進めてきました。

平成23年度（2011年度）からは、平成32年度（2020年度）までを計画期間とする「北広島市総合計画（第5次）」により、「自然と創造の調和した豊かな都市」をまちづくりのテーマとし、10年間の計画期間においてめざす都市像を設定しています。

また計画は、めざす都市像を実現するために、基本計画として各分野で実施する施策を体系的に示しており、社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じ中間年度で見直すこととしています。

平成28年度は、基本計画後半の初年度に当たり、社会情勢や時代の要請、国・道の動向など、教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、市総合計画との整合性を図りながら、後半5年間の教育計画のスタートを切りました。

平成29年度は、昨年度見直した教育基本計画に基づき、若干の見直しを行いながら、基本計画の学校教育分野における後期5年間の指針及び基本計画と政策をつなぐ役割を持って「学校教育の推進方針」を策定するものです。

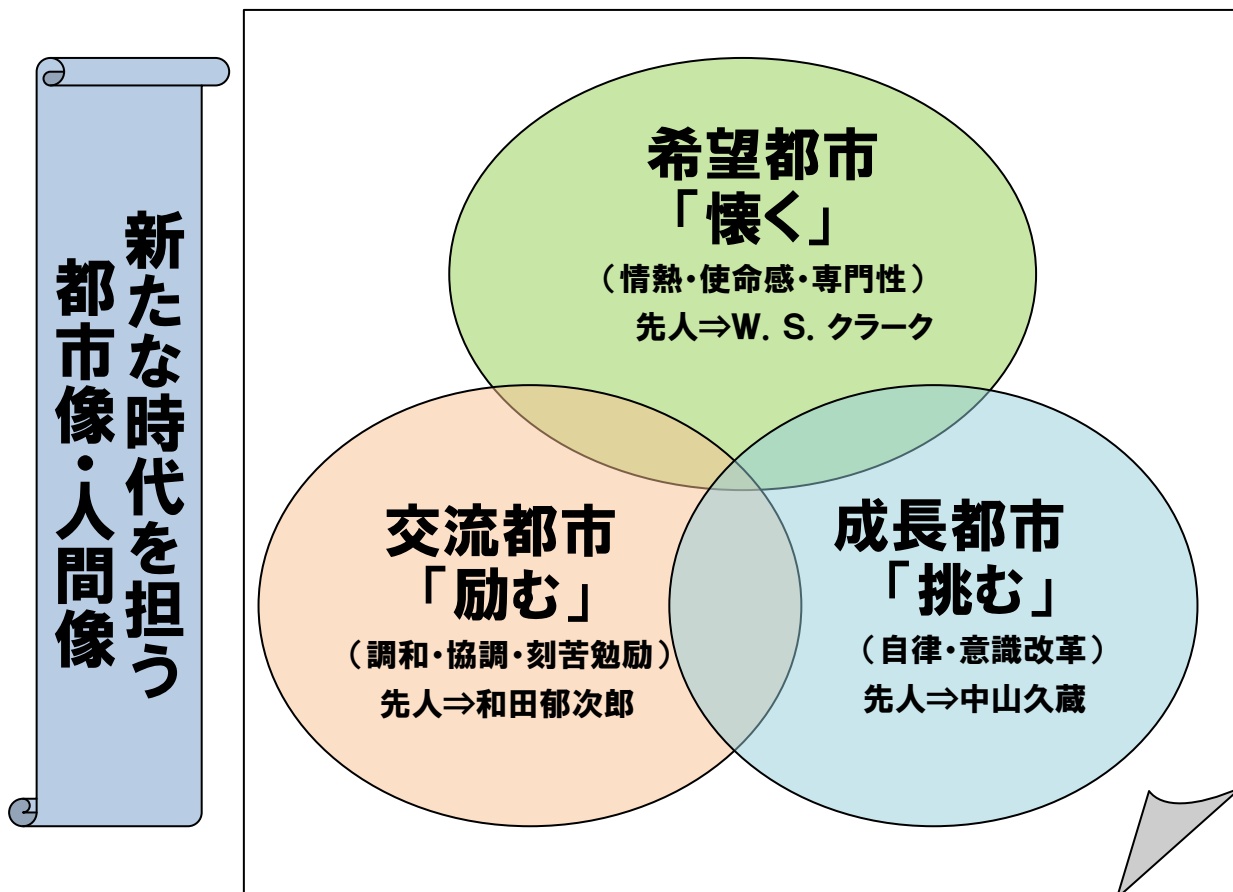
第1章 北広島市教育基本計画

1 北広島のまちづくり・人づくり

北広島市教育委員会は、平成32年度までを計画期間とする「北広島市総合計画（第5次）」における基本目標「人と文化を育むまち」に基づき、これまでの基本理念や基本姿勢を踏まえ、新たな北広島市の教育についての基本的な方向を示し着実に推進するための個別・具体の施策について体系的に整理し、本市がめざす教育の推進を目的とする「北広島市教育基本計画（2011～2020）」（以下、「教育基本計画」という。）を策定しました。

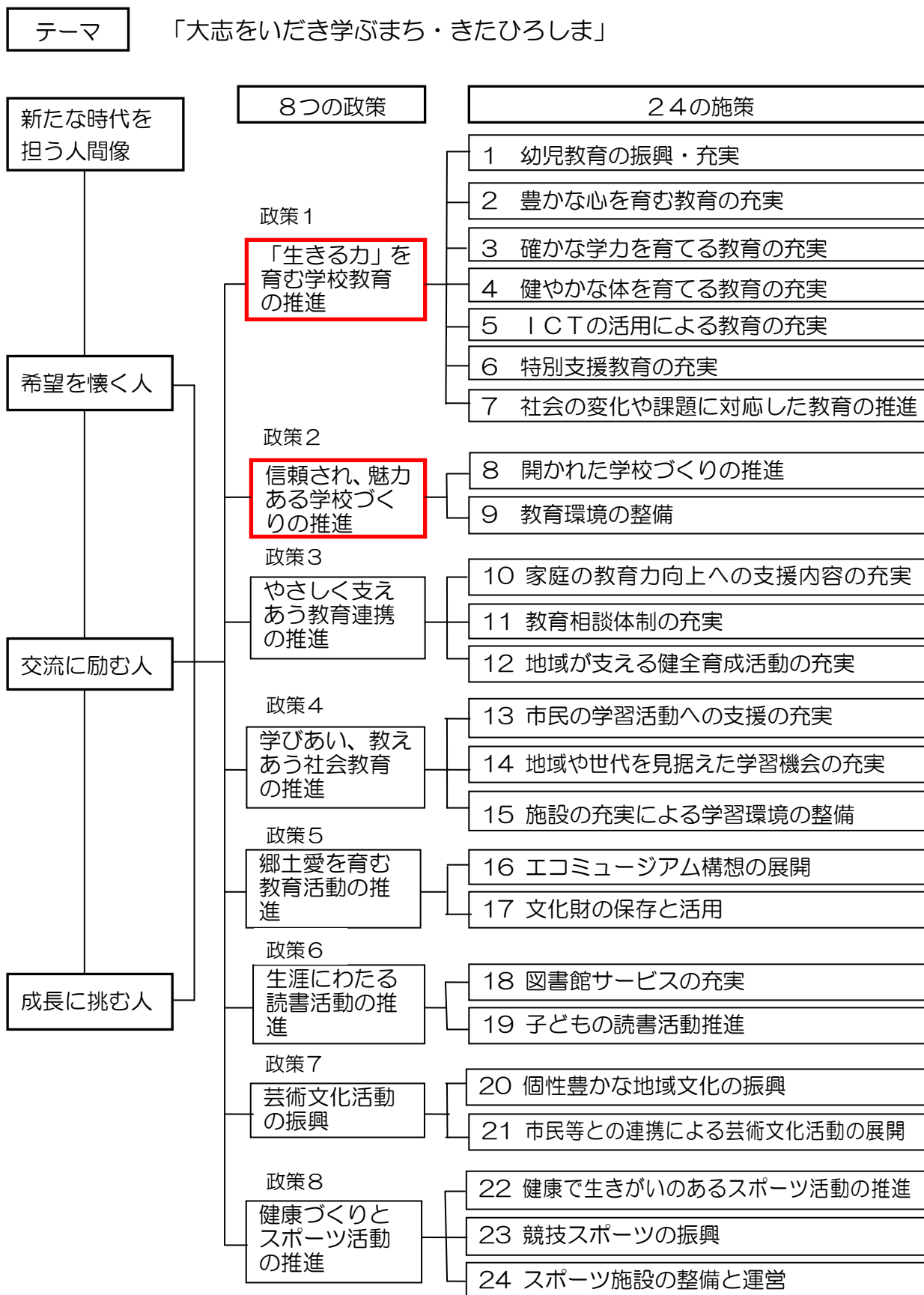
この教育基本計画においては、本市が進める「まちづくり」にふさわしい「人づくり」に重点を置き、教育施策を推進するものであり、このまちにゆかりのある先人の精神や行動から導き出された人間像として、「希望都市」にはW. S. クラーク博士による「希望を懐く」、「交流都市」には和田郁次郎翁による「交流に励む」、「成長都市」には中山久蔵翁による「成長に挑む」を新たに掲げたものであります。

この人間像、人づくりの精神が、計画における8つの施策と24の施策として展開されています。



2 人と文化を育む8つの政策と24の施策

北広島市教育基本計画（2011～2020）の体系



第2章 学校教育の推進方針

平成29年度

北広島市学校教育の推進方針

北広島市の教育理念

北広島市教育委員会

すぐれた知性と豊かな心とたくましい身体をもって、
自然と創造の調和を図り、進展する郷土社会へ貢献する。

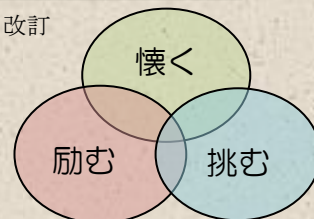
昭和44年8月制定 昭和60年3月改訂

北広島市教育目標

～北広島にゆかりのある

学校教育目標

3人の先人の精神を礎として～



めざす 子ども像

大志をいだき 心豊かに
たくましく 生きる子ども



学校教育 推進政策

□「生きる力」を育む
学校教育の推進

□信頼され、魅力ある
学校づくりの推進

学校教育の 重点

義務教育9年間を通して「生きる力」を育む
小中一貫教育の推進

本年度の 実践目標

小中の系統性を明確にした
中学校区ごとの教育計画の立案と実施

マネジメントサイクル（RPDCA）による
学校経営ビジョンの策定と進行、評価

実践への 具体的 手立て

- (1)教育課程 9年間を見通した中学校区ごとの指導計画の作成と実践
- (2)授業改善 課題提示とまとめや振り返りによる授業展開
- (3)道徳教育 「考え議論する」道徳授業を意識した授業改善と指導計画の整備
- (4)特別支援 児童生徒の教育ニーズに応じたきめ細かな教育支援の実施
- (5)ICT活用 ICT を活用した授業の推進
- (6)キャリア教育 「きたひろ夢ノート」の活用と大志学(キャリア教育)の充実
- (7)生徒指導 中学校区でのスタンダードの実践と検証
- (8)連携 家庭、地域と連携を図った学習・生活習慣の確立
- (9)資質向上 中学校区での授業交流と合同研修の実施

1 北広島市の教育理念

「すぐれた知性と豊かな心とたくましい身体をもって、自然と創造の調和を図り、
進展する郷土社会へ貢献する。」

昭和 44 年 8 月制定 昭和 60 年 3 月改訂

ふるさと北広島の発展と振興に貢献する人材の育成を北広島市における教育の根本的な考え方として、すぐれた知性、豊かな心、たくましい身体をもち、自然との調和を図りながら、進展し続けるふるさと北広島に貢献する人材を育てることをめざしています。

2 北広島市の教育目標

- (1) 北広島市民としての誇りと自覚を持つ人
- (2) 協力して豊かなまちづくりに努める人
- (3) 文化を高める生活の合理化をめざす人
- (4) 健康な身体と豊かな心情や知性を持つ人
- (5) 勤労を尊び生産を高める人

昭和 44 年 8 月制定

北広島市における教育の目標を示しています。

3 北広島市の学校教育目標

- (1) 自主性を高め協力して豊かな郷土を築いていける人を育てる
- (2) 思考力を深め科学的で合理的な生活をめざす人を育てる
- (3) 情操を深め文化の創造につくす人を育てる
- (4) 健康な心身を培い社会の進展に貢献する人を育てる
- (5) 勤労の尊さを知り生産を高める実践的な人を育てる

昭和 44 年 8 月制定

北広島市における学校教育の目標を示しています。

4 北広島市にゆかりのある3人の先人の精神を礎として ～懐く・励む・挑む～

「大志をいだき学ぶまち・きたひろしま」は、北広島市開拓期にゆかりのある偉大な先人、W. S. クラーク、和田郁次郎、中山久蔵の3人が伝える「懐く」、「励む」、「挑む」の精神を人材育成のキーワードとして「これからの人づくり」の視点を反映しています。

「懐く」

1877年、北広島市島松沢で米国への帰国に際して、W. S. クラークは当時の教え子たちに「青年よ 大志を懐け」の名言を残しています。彼は当時の学生たちに情熱・使命感・高い専門性をもち、新しい時代を切り開くよう伝え続け、「希望を懐く」人づくりに努めました。

彼の志を受け継ぎ、北広島市第5次総合計画（2011～2020）に示されている「希望都市」の実現に向け、「懐く」を掲げています。

「励む」

1884年、広島県人により北広島の開拓の歩みが始まりました。そのリーダーとして苦難の道を歩みながら努力を続けたのが和田郁次郎です。たゆまぬ努力でまちと人を動かし続けた彼は、調和・協調・刻苦勉励の「交流に励む人」そのものでした。

人との交流がまちづくり・人づくりに欠かせない視点であることから、北広島市第5次総合計画（2011～2020）に示されている「交流都市」の実現に向け、「励む」を掲げています。

「挑む」

1871年、現在の島松沢に入植した中山久蔵は、当時は不可能とされていた道南以北での稲作に挑みました。彼は、幾多の苦勞の末、2年後に米を収穫し、開拓に当たっていた人々に種もみを無償で配布し、本道の稲作の端緒を開きました。

「寒地稲作の父」と言われる彼は、自律・意識改革・行動の「成長に挑む人」であり、北広島市第5次総合計画（2011～2020）に示されている「成長都市」の実現に向け、「挑む」を掲げています。

5 めざす子ども像

『大志をいただき 心豊かに たくましく 生きる子ども』 ～賢く 優しく たくましく～

3人の先人の足跡が北広島市の人づくりの基幹をなしています。先人の「希望を懐く 交流に励む 成長に挑む」志を体現できる子どもを育むことをめざしています。

これらの先人の志を踏まえて、北広島市で学ぶ児童生徒のめざす子ども像を「大志をいただき 心豊かに たくましく 生きる子ども」（副題「賢く 優しく たくましく」）と掲げました。

北広島市の子どもたちが夢や目標に向かって、「意欲的に学習に向かい、基礎的な知識・技能を活用して、様々な課題を解決する力」（大志をいただき）を身につけ、「他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義や公正さを重んじる心」（心豊かに）を育み、「困難に立ち向かう たくましく健康な心と体」（たくましく）を持ち、力強く未来を生きていく子どもの育成をめざしたいと考えています。

以上述べた内容を踏まえ、各中学校区では、校区の子どもたちの実態をもとに、めざす子どもたち像を整理し、共有化を図っていくことが求められます。

6 学校教育推進政策

□ 「生きる力」を育む学校教育の推進（政策1）

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに身につけさせたい「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の3つの要素からなる「生きる力」を育むことは学校教育の重要な使命の一つです。

児童生徒が望ましい学力を身につけるためには、基礎・基本的な知識・技能、課題を解決するための思考力・判断力・表現力、主体的な学習態度を育成することが大切です。学校では、学習指導の向上・充実に取り組むとともに、学習習慣及び生活習慣を確立し、「確かな学力」の定着に取り組めます。

また児童生徒が将来にわたり、人としてよりよく生きていくためには、自己有用感を高め、自らの生き方を考え実践できる力を身につけることが大切です。学校では、道徳教育の充実をはじめ、全教育活動において「豊かな心」を育む教育の推進に取り組めます。

児童生徒が健やかに成長していくためには、自らが基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに健康に生活できる能力を高めることが大切です。学校では、運動を通じて体力を養うとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を確立し、「健やかな体」の育成に取り組めます。

さらに「生きる力」の育成を支える取組として、キャリア教育、特別支援教育、ICTの活用、幼児教育等の一層の充実を図ります。

□ 信頼され、魅力ある学校づくりの推進（政策2）

地域に開かれ信頼される学校を実現するため、子どもを中心にすえ、保護者や地域のみなさんの声を活かした学校経営を進めるとともに、家庭、地域と連携した取組を推進することが大切です。

保護者や地域のみなさんに信頼され、魅力ある学校づくりを推進するためには、校長が自校の学校経営について確かな展望を持ち、その具現化に向けて校内体制の整備や教育内容の工夫を欠かすことができません。そのために学校経営マネジメントサイクル（RPDCA）を有効に機能させながら、学校経営の充実に取り組みます。

また、学校から保護者や地域のみなさんへは、めざす学校像や子ども像をていねいに説明し、理解を求めるなどの情報発信に努め、開かれた学校づくりを推進します。あわせて、地域、学校それぞれの教育資源を互いに提供し合う双方向の連携にも努めます。

今後、学校・家庭・地域が一体となった小中一貫教育を推進し、義務教育9年間で修了するに相応しい「生きる力」を育み、信頼され魅力ある学校づくりを進めます。

7 学校教育の重点

『義務教育9年間を通して「生きる力」を育む

小中一貫教育の推進』

子どもを取り巻く環境の激しい変化に対応するためには、小中学校9年間を見通して小中一貫した教育を推進することが極めて重要です。さらに、学校、家庭、地域が協働した教育の展開も求められています。市内小中学校での小中一貫教育を推進するために次の視点を定めます。

○ 中学校区での「めざす子ども像」の共有

中学校区でのめざす子ども像を小中学校で共有し、児童生徒の「生きる力」を育成します。

○ 義務教育9年間を見通した一貫した指導

教育課程の編成、指導形態などの工夫改善や生徒指導、キャリア教育の充実を図り、義務教育9年間を見通した一貫した指導を行います。

○ 子ども同士や教職員間の交流と協働による教育活動

小中学生が互いに学び合う場と、教職員が協働して推進する教育活動を設定するなど、交流と協働による教育活動を推進します。

○ 中学校区での学びを支えあう教育環境づくり

中学校区を単位とし、学校、家庭、地域が連携して子どもの連続した学びを支える教育環境づくりを推進します。

8 本年度の実践目標

『小中の系統性を明確にした中学校区ごとの教育計画の立案と実施』

各小中学校の教育課程では、児童生徒や地域の実態に応じた中学校区での編成を一層進めます。さらに、中学校区での小中の連続性を明確にしたキャリア教育、教科等の指導計画や系統表を立案し実施します。

中学校区においては、これまで進めてきた小中連携・一貫教育を基盤にして、系統的・継続的な教育活動を展開します。

9 実践への具体的手立て

マネジメントサイクル(RPDCA)による 学校経営ビジョンの策定と進行、評価

変化の激しい社会の中で、学校を取り巻く環境も大きく変化し、教育活動の複雑さが増しています。このような中で、学校教育の展開には、教職員間で教育課題を共有することが重要です。各学校がめざす目標の具現化や課題の解決のために、教職員間でそれらを共通確認し、組織的な取組や対応をすることが必要です。

マネジメントサイクル(RPDCA)によって、各学校の教育活動を評価・分析し、課題を焦点化するなどします(R～リサーチ)。それらによって、教育課題の方向性を定め、具体的な取組を計画化します(P～プラン)。北広島市の小中学校では、各月の学校づくりの指標を明らかにする「学校経営プログラム」を策定して計画の具体化を図っています。それらの計画を組織的、協働的に実践し、児童生徒の変容を促す取組を行います(D～実践)。これらの取組について達成状況を評価するなど教育活動や学校運営に関わる評価を行います(C～評価)。その評価に基づき、改善の方法性や改善策の策定を行い、組織的な意思決定します(A～改善)。

このように学校が組織的に教育活動を展開するために、校長は学校経営ビジョンの策定を行い、その進行を管理し、適切に指示することによって学校改善に努めます。

(1) 教育課程～9年間を見通した中学校区ごとの指導計画の作成と実践

北広島市では、平成21年度より中学校区での小中の連携のあり方を検討し、その具体化について各校で検討委員会などを設け試行するなどしてきました。具

体的な取組としては、小学校6年生に対して卒業期に中学校教員による出前授業の実施、部活動の体験入部、小中の教員相互の授業交流などがあります。

また、平成28年度は、「キャリア教育の全体計画・指導計画の整備」、「教科系統表の作成」などを掲げて小中一貫に向けて取り組んできました。

平成29年度は、中学校区ごとに9年間を見通した子ども像を共有し、系統性・連続性を重視した指導計画の作成と実践を行います。

また、標準学力検査（NRT）や全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力調査等について、中学校区ごとに結果と対策を話し合い、改善プランを共有して指導計画の改善に生かします。

さらに、乗り入れ授業をはじめ、小学校高学年における一部教科担任制、児童生徒の合同授業など指導体制の工夫を中学校区ごとに進めます。

（2）授業改善～課題提示とまとめや振り返りを確実にを行う授業展開

授業では、児童生徒自身が「何を学ぶのか、何ができるようになるか、どのように学ぶのか」がわかること、すなわち課題提示や振り返り、疑問が生まれる学習の工夫が大切です。

全国学力・学習状況調査の結果から、「課題提示や振り返る取組を積極的に行った学校ほど平均正答率や学習意欲が高い」ことが明らかになっています。

北広島市では全市的に課題提示と振り返りに達成目標を定め取り組んできましたが、今後も確実に学力の定着につながる実践が大切です。

以上のことから、平成29年度においても引き続き課題提示と振り返りを確実に行うとともに、課題提示と振り返りをセットにとらえ、より効果的な実践になるような授業展開をめざします。

また、子どもたちの「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を実現するアクティブ・ラーニング（A・L）の視点から、指導過程の改善についても各学校で取り組みを進めます。

（3）道徳教育～「考え議論する道徳」を意識した 授業改善と指導計画の整備

学校における道徳教育は、教育活動全体を通じて行うものであり、豊かな心を持ち、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動です。このことは、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割を持っています。

学習指導要領が一部改正され、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から、「特別な教科 道徳」が実施されることとなります。道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、ものごとを多面的・多角的に考え、自己の生き方や他者との関わりについて、「考え議論する」道徳の学習を推進することが求められています。

これらのことを受け、各学校では、「考え議論する道徳」に基づく授業の実践と交流の積み上げをし、授業改善と指導計画の整備に取り組めます。

(4) 特別支援～児童生徒の教育的ニーズに応じた

きめ細かな教育支援の実施

市内全ての小中学校に設置されている特別支援学級に在籍する児童生徒はもちろんのこと、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学習上、生活上の困難を克服するための教育支援が大切です。

各学校では、特別支援委教育の視点から学校全体の組織や指導のあり方を見直し、工夫することにより、わかりやすい授業や、誰もが居心地のよい学級・学校を実現するよう努めます。

全教職員があらゆる機会をとらえて児童生徒の理解と教育的ニーズを踏まえた指導をすることはもちろん、特別支援教育の推進のためには、全ての児童生徒や保護者への正しい理解を広めることが大切です。児童生徒一人ひとりの持てる力を高め、生活や学習上の困難を克服するための指導と支援を行います。

(5) ICT活用～ICTを活用した授業の推進

学校のICT環境の整備が進み、電子黒板や実物投影機はもとより、小学校のタブレット型パソコンや小中学校のデジタル教科書の使用が可能になっており、今後ますますICTの効果的な活用が重要です。

学習指導でのICT活用は、個別指導やグループ別指導など、指導方法や指導体制の工夫や改善とともに教育効果が期待できる指導の一つです。ICTを活用した授業では、「児童生徒が意欲的に学習に取り組める」、「楽しく学習できる」と8割を越えて回答している全国調査もあります。

大きな教育効果を期待できるICTですが、その活用については、実践例の紹介や研修会の実施などを行い、教職員の授業実践力の向上と改善に努めます。

(6) キャリア教育～「きたひろ夢ノート」の活用と大志学(キャリア教育)の充実

「キャリア教育」とは、子どもたちが、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育のことです。したがって、児童生徒一人ひとりの生き方に関わり、自己と働くこととの関連づけや価値づけを支援することが求められています。中学校卒業後にどのような学校に進学するだけでなく、一人ひとりの成長・発達の過程における様々な経験や人々とのふれあいなどの活動が総合的に関わっています。

「きたひろ夢ノート」は、各学校での実践を通して、活用や指導場面の工夫について検証してきましたが、一層の活用と実践を積み重ねます。

本市においてはキャリア教育を大志学として位置づけ、各中学校区で児童生徒の実態に応じたキャリア教育の指導計画を立案し、9年間の学びを通じて自立した生き方を身につける教育活動を展開します。

(7) 生徒指導～中学校区でのスタンダードの実践と検証

中学校区ではめざす子ども像を明確にし、義務教育9年間で系統的・継続的な指導となるように、「中学校区スタンダード」を策定し実践しています。それらを踏まえ、子どもや地域の実態に即した「育てたい力」を明確にして、一貫した指導の充実を図ります。

また実践されているスタンダードが様々な活動への指針として活用されるよう中学校区で実践と検証を行います。推進にあたっては、各校が組織的に取り組み、実践後には小中学校の児童生徒や教職員で振り返りを行い、成果や課題を明確にして改善につなげます。

中学校区で子どもを育てるには、学校と家庭、地域が一体となって取り組むことが欠かせません。地域によっては、長年にわたって学校と地域が連携した子育てが展開されている校区もあります。そのような貴重な連携活動も活用しながら、スタンダードの実践を家庭や地域にも積極的に発信し、学校・家庭・地域が連携した取組にします。

(8) 連携～家庭、地域と連携を図った学習・生活習慣の確立

児童生徒の望ましい成長には、進んで学習する習慣、発達段階に応じた基本的な生活習慣の確立が大切です。平成28年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査結果では、小中学生ともに、平日1時間以上勉強していると答えた割合が63%となっています。一方で平日3時間以上テレビなどを見ていると答えた割合が20%を越えています。

児童生徒の学習習慣、生活習慣の確立は学校だけの取組では十分ではありません。家庭に対しては、啓発活動とともに発達段階に応じた学習や生活のあり方についての理解と協力が得られるよう啓発に努めます。また、地域と連携し、中学校区で育てたい子ども像を明確にし、地域の子どもを共に育む取組を展開します。

今後とも教育資源の活用やボランティア活動など、学校・地域が双方向の連携を強め、地域とともに創り上げる教育活動を推進していきます。

(9) 資質向上～中学校区での授業交流と合同研修の実施

子どもたちの確かな学びを保障するためには、教師の授業力など指導力の向上が必要です。小中学校についての相互理解と学習指導や生徒指導などの中学校区でめざす子ども像を明確にするなど、義務教育9年間で系統的・継続的に指導することが求められます。

中学校区で小中学校での授業交流等による教職員の指導力向上を図るため、中学校区全教職員による合同研修と中学校区の小中一貫教育推進会議を定期的に関催します。

10 実践への具体的手立てと達成目標

| 成果指標 | 指標の概要 | 達成目標 |
|--|--|----------------------------------|
| (1)教育課程 9年間を見 通した中学 校区ごとの 指導計画の 立案・作成 | ○学校対象アンケート ・「中学校区で、大志学（キャリア教育）の指導計画、教科（算数・数学等）の系統表を作成していますか。」 | 100% |
| | ・「中学校区で、標準学力検査（NRT）や全国学力学習状況調査、全国体力・運動能力テストの結果を共同で分析し、改善プランの作成に役立っていますか。」 | 100% |
| | ・「乗り入れ授業・学習を実施していますか。」 | 80% |
| (2)授業改善 課題提示とま とめや振り返 りを確実に 行う授業展開 | ○児童生徒対象アンケート ・「授業のはじめに、課題（めあて・ねらい）が示されていますか。」 | ○課題提示 小90% 中60% (当てはまる) |
| | ・「授業の最後に、学習の内容を振り返る活動が行われていますか。」 | ○振り返り 小80% 中50% (当てはまる) |
| | ○学校対象アンケート ・「課題提示と振り返りを意識した授業づくりのため、年度当初に校内研修等で、全教職員で確認し、途中で取組状況を検証していますか。」 | 100% |
| (3)道徳教育 「考え議論す る道徳」を意 識した授業改 善と指導計画 の整備 | ○児童生徒対象アンケート ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」 | 70% |
| | ○学校対象アンケート ・「考え議論する道徳授業の授業交流と協議・研修を行っていますか。」 (選択肢で 例：ア. 授業交流と研究・協議の両方) | 70% (両方) |
| (4)特別支援 児童生徒の教 育的ニーズに 応じたきめ細 かな教育支援 の実施 | ○学校対象アンケート ・「学校では、特別な支援を必要とする児童生徒に教育的な支援を行っていますか。」 | 100% |
| | ・「特別支援コーディネーターによる校内教育支援会議を実施していますか。」(回数も調査) | 100% |

| 成果指標 | 指標の概要 | 達成目標 |
|---|---|--------------------------------------|
| (5)ICT 活用 ICT を活用し た授業の推進 | ○児童生徒対象アンケート ・「電子黒板、タブレット、実物投影機など ICT 機器 を活用した授業が行われていますか。」 | 100% |
| | ○学校対象アンケート ・「ICT 活用状況について、小学校教育用タブレット、 中学校デジタル教科書の月別利用回数全校平均は どのくらいですか。」 | 小学校 10回以上 中学校 20回以上 100% |
| (6)キャリア教育 「きたひろ夢 ノート」の活 用と大志学 (キャリア教 育)の充実 | ○児童生徒対象アンケート ・「夢ノートの活用などを通して、将来の夢や目標を 持っていますか。」 | 小学校90% 中学校80% |
| | ○学校対象アンケート ・「夢ノートを教育課程に位置付けて、その活用が図 られていますか。」 ・「地域の教育資源を活用した体験的なキャリア教育 の実践を行っていますか。」 | 100% 100% |
| (7)生徒指導 中学校区での スタンダード の実践と検証 | ○児童生徒対象アンケート ・「スタンダードを意識した生活を送っていますか。」 | 80% |
| | ○学校対象アンケート ・「スタンダードの家庭・地域への普及啓発に取り組 んでいますか。」(方法・内容も調査) ・「スタンダードの実践を行い、達成状況などについ て検証していますか。」 | 100% 100% |
| (8)連 携 家庭、地域と 連携を図った 学習・生活習 慣の確立 | ○児童生徒対象アンケート ・「家族とスマートフォン、テレビ、ゲームなどの使 い方や見方、やり方について約束をしていますか。」 ・「家庭学習について、小学校6年生は1時間以上、 中学校3年生は1時間30分以上していますか。」 | 80% 80% |
| | ○学校対象アンケート ・「中学校区内で小中合同の授業交流を行っています か。」(回数も調査) ・「中学校区で小中一貫推進組織の合同会議を持って いますか。」(回数、内容も調査) | 100% 100% |

※児童生徒対象アンケートは、小学校6年生、中学校3年生全員を対象とする。

※アンケートは10月～11月に実施する。

※児童生徒の達成目標の数値は、「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計を基本とするが、「授業改善」の課題提示と振り返りは「当てはまる」の数値とする。



平成29年度
北広島市学校教育の推進方針
平成29年2月
北広島市教育委員会